



農業者の
所得増大



農業生産
の拡大

JA自己 改革広報

VOL. 1

JA会津よつばは、自己改革【1. 農業者の所得増大、2. 農業生産の拡大、3. 地域の活性化】に取り組んでいます。



地域の
活性化



JA自己改革

会津よつばも取り組んでいます！

JA会津よつばは、安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、地域とのつながりを大事にした、地域に根ざした事業を展開しています。

新年度からは、JAの多様で個性的な取り組みを連載でお届けします。トピックスにも自己改革の記事を作成し、特に強調したい写真には「自己改革」のリボンが掲載されています。

自己改革の3つの柱 ってなんだろう？

JA会津よつばでは、自己改革の取り組みとして、平成28年度から3カ年の合併事業計画に盛り込み事業を展開しています。自己改革には主となる3本の柱があり、JAはこれに基づき事業を進めています。

農業者の所得増大

生産・出荷コストの削減
トップセールスによる販促活動
輸出による販路拡大

など

農業生産の拡大

パイプハウスや生産資材への助成
里山のつぶなど、多収品種の普及拡大
営農指導員の人材育成

など

地域の活性化

農業体験での消費者との交流
年金友の会・女性部・農青連活動
各地でのJAまつり

など



JA自己改革

全地区で稲作部会が設立



70名の出席者が協議しました

3月13日、みなみ地区で、南会津水稲部会が発足しました。みなみ地区では初めての水稲部会設立となりました。

合併後は水稲部会連絡協議会を発足し、会津を一つの米産地とするため、設立を目指し協議していました。

今年度より南会津水稲部会の事業として「里山のつづ」の展示圃を設置し、技術を習得し、ブランド化に取り組む方針です。これからの会津米は、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「天のつづ」そして「里山のつづ」で主食用米、業務用米に広く対応していきます。

長谷川専務は「里山のつづは中山間地の栽培に適し、食味がよく多収の品種のため、農業者の所得拡大にも期待したい」と話しました。

各地区の部会

あいづ地区稲作部会
いいで地区稲作部会
みどり地区水稲部会
南会津水稲部会



意気込みを語る田島地区の室井文一部会長

Point

すべての地区に部会ができたことで、その土地に合った稲作の振興が可能になります。多種多様な米が作れるため、消費者が求める米に対応できるようになります。

JA自己改革

JAの助成事業

JA自己改革の取り組みとして、平成30年度から平成32年度までの3カ年に次の農業関連助成事業を実施します。

平成30年産米の取扱いにおける重点事項として、担い手の労力削減や作業効率化を図るため、フレコン出荷設備の取得についてフレコン集荷推進助成事業を実施します。また、需要に応じた米生産を行うには園芸作物への転換も促進することが重要であることから園芸振興助成事業も実施しますので、各営農経済センターへお問い合わせください。

事業名	フレコン集荷 推進助成事業	園芸振興助成事業		
		簡易パイプハウス	かん水設備	種 苗
支援要件	当JAの組合員であり 認定農業者または 担い手農家であること	当JAの組合員であり販売を目的とした 園芸作物であること 新規または規模拡大面積が 概ね10a以上であること		当JAの組合員であり 販売を目的とした園芸 作物であること 新規栽培者であること
対象作物	水 稲	園芸振興作物		
支援内容	フレコン用計量器(必須) 貯留タンク・色彩選別機 等の導入支援 (施工費含む)	簡易パイプハウスの 導入支援 (施工費除く)	かん水設備の導入 支援 (施工費含む)	新規栽培者が導入 する園芸振興作物 の種苗の導入支援
	但し、中古品は対象外 フォークリフト対象外		エンジンポンプ・ ろ過機・液肥混入器・ 灌水チューブ・排管等	
事業の 進め方 (提出書類)	事業開始前	事業開始前	事業開始前	事業開始前
	○申請書、見積書	○申請書、見積書、写真	○申請書、見積書、写真	○申請書
	↓	↓	↓	↓
	JA承認後 事業着手	JA承認後 事業着手	JA承認後 事業着手	JA承認後 事業着手
	事業完了後	事業完了後	事業完了後	事業完了後
	↓	↓	↓	↓
	○報告書、納品請求明 細書、写真	○報告書、供給伝票 写真	○報告書、供給伝票 写真	○報告書、供給伝票 写真
申請期日	5月末日〆切	第1回:5月末日〆切 第2回:9月末日〆切		
助成率	出荷設備費の10%以内 (上限額40万円)	購入費の30%以内	購入費の10%以内	購入費の30%以内
	但し、県、市町村等からの助成を含め事業費の50%以内での支援とする。			



この助成には申し込みの期限がありますので、お早めにお申し込みください。生産拡大や効率的な農業で所得向上を実現させるため、JAがお手伝いします！

自己改革 1. 農業者の所得増大



販売事業の取り組み

アスパラ共同選果施設



喜多方市山都支店にある西部地区アスパラガス選果施設には、最新式の結束機が導入された。従来の150g規格に加え、100g規格にも対応できるため、消費者の需要に応じた出荷ができることで高単価の取引が可能となり、生産者の手取りアップにもつながっています。

(平成29年度広報誌よつば5月号特集掲載)

JAと17市町村トップセールス



平成29年8月3日～6日に東京築地市場、イトーヨーカ堂西新井店においてJAと会津17市町村長による合同トップセールスを行いました。全会津が一つとなる初の取り組みで、大きく報道されました。市場や量販店、飲食店なども招待した宣伝試食会も行い、会津の農畜産物を盛大にPRしました。(平成29年度広報誌よつば9月号特集掲載)

農産物輸出



JA会津よつばと猪苗代町は2月18日(日)より5日間、アラブ首長国連邦(UAE)ドバイで行われた中東最大級の食品見本市「Gulfood2018」に猪苗代町産オリジナルブランド米「いなわしろ天のつぶ」を出品しました。これまでの継続的な販促活動を通して、ドバイで高級日本料理店を展開している「湖畔亭」や「YUI」などに輸出を決めてきました。

自己改革 1. 農業者の所得増大



購買事業の取り組み

肥料祭り 南郷営農経済センター



みなみ地区南郷営農経済センター、只見営農経済センターでは、春先に肥料祭りを開催しています。その場で肥料を渡すため、配達料が掛からず、またJAでも配達するための労力が減り、双方にコスト削減のメリットがあります。

肥料の販売をメインに農機、自動車の展示・販売、バスタフェアも同時開催しました。(平成30年度広報誌よつば5月号に掲載)

バスタフェア、ザクサフェア



毎年、各地区の営農経済センターでは、メーカーと除草剤の特売フェアを開催しています。

特別価格での供給とバケツなども付いてくるので毎年好評です。



JAグループと農機メーカーで低価格を実現へ

全国の生産者が共同購入に結集し低価格を実現しよう!

JAグループは、生産現場の声を反映した大型トラクターを開発しました。

価格 機能 作業性

キャビン エアコン 60馬力 クラス

自動水平 自動耕深 倍速ターン

前・後進 16段 重量 2.8トンの オートブレーキ

JAグループ 全農

共同購入トラクター 開発から納品まで

- 開発要求** 平成29年9月
JA全農は、生産現場からの声を反映した、トラクターの開発をメーカーに要求しました。
- 事前申込** 平成30年3月まで
共同購入を希望される方は、平成30年3月までに、お近くのJAに事前申込を提出します。
- 製品選定** 平成30年6月
JA全農は、メーカーから提示されたトラクターの仕様・性能等を検討し、最も適切な製品を選定し、一括購入します。
- 製品発表** 平成30年7月
農機メーカーから提示された仕様・性能等を踏まえ、製品発表会を開催し、農機メーカーと共同購入します。
- 納品開始** 平成30年10月から
ご契約いただいた方には、平成30年10月以降に、トラクターを納品します。

JAグループでは生産現場からの声を反映したトラクターの開発を農機メーカーに要求しました。必要な機能を絞って開発し、事前申し込みで積み上げた台数を背景に全農が大量・一括購入をすることで、生産者の皆様へより安く供給することを目指します。

自己改革 1. 農業者の所得増大



担い手訪問・支援活動

営農部農業経営支援課、各地区地域農業支援課では、管内の担い手を訪問し農業所得の向上、生産拡大について相談・支援活動を行っています。

平成29年度は、農家所得向上対策としてJAグループへ下記のとおり申請を行いました。その他、集落営農組織や法人設立への助成申請も行っています。

【TAC担い手支援事業】

支援事業名	助成金額等	件数	申請金額
新規就農生産支援	南郷トマト栽培 【助成20万円／人】	5	1,000千円
新販売戦略作物生産支援	玉ネギ栽培 【助成20万円／人】	2	400千円
かすみ草生産拡大支援	かすみ草栽培助成 【20万円／人】	9	1,800千円
省力低コスト水稻栽培実証試験支援	水稻密苗 【面積256a・1万円／10a】	7	256千円
輸出米産地育成支援	水稻 【面積300a・2万円／10a】	2	600千円
	合計	25	4,056千円

【新規就農促進支援事業】

支援事業名	助成金及び要件等	件数	申請金額
独立就農支援事業	就農した45歳以上の独立新規就農者へ 【20万円／年・3回まで】	14	2,800千円
雇用就農支援事業	45歳未満で農業法人に雇用された新規就農者へ 【10万円／年・1回】	6	600千円
	合計	20	3,400千円

自己改革 2. 農業生産の拡大



JA独自の農業関連助成・担い手支援・生産拡大

地域農業振興積立金の活用

JAでは、農業関連支援事業や担い手支援対策への助成に備え、毎年度の剰余金の一部を積み立てています。

毎年度、基準に基づき園芸振興支援事業や畜産振興支援事業などに活用しています。

年度	金額	備考
平成28年度	103,105千円	パイプハウス助成など
平成29年度	72,067千円	パイプハウス助成など

金融部署との連携による担い手支援



農業経営支援課のTAC担い手訪問活動は、金融部と連携し経営改善や規模拡大の支援も行っています。

また、JA独自の助成事業により、園芸品目の施設化、経営面積の拡大、新規参入を支援しています。

「里山のつぶ」の普及拡大



JAでは、県や管内市町村と連携し、里山のつぶの普及拡大に取り組んでいる。平成30年産の播種前に中山間地帯で生産法人が多い地区や稲作部会などで講習会等を開催しました。

農家所得の向上も目指し、中山間で栽培されているあきたこまちを収量が多い里山のつぶへの普及拡大をすすめています。

自己改革 3. 地域の活性化



農業体験・食農教育・地域貢献

グリーンツーリズム



震災後、途絶えていた農業体験も再開し、企業や消費者等との交流が積極的に行われています。その他、管内市町村や企業のイベントに協力し地域の活性化にも取り組んでいます。

(平成29年度広報誌よつば6月、11月号掲載)

女性部活動



JA会津よつば女性部は、4地区に24支部あり、約1850名の部員がいます。様々な生活文化活動を行い地域の活性化に取り組んでいます。

(平成29年度広報誌よつば10月号特集掲載)

農青連活動



JA会津よつば青年連盟は、4地区に13支部あり、約480名の盟友がいます。地元での食農教育で次世代に農業体験を通して食の大切さを教えています。

(平成29年度広報誌よつば1月号特集掲載)

自己改革 3. 地域の活性化



農業体験・食農教育・地域貢献

年金友の会活動



当JAの年金友の会は、約27,800名の会員で構成されています。

JAでは、各地区で旅行やグラウンドゴルフなど様々な行事を開催し、地域に交流の場を提供するとともに健康で明るく楽しい暮らしを応援しています。

地域イベントへの協賛



当JA管内の地域イベントや祭りの開催に協賛し、地域貢献、地域の活性化に取り組んでいます。

また、新米などを参加賞やおにぎりに提供し、会津の農産物の美味しさを発信しています。

自己改革 3. 地域の活性化



農業体験・食農教育・地域貢献

JAまつりの開催



JA会津よつばでは、毎年、夏から秋にかけて、各地でJAまつりを開催しています。支店の地域性を生かしたイベントや歌謡ショーなど、様々な取り組みで組合員、地域の皆様に喜ばれています。また、市町村の文化祭などと連携して地域活性化に取り組んでいる支店もあります。（平成29年度広報誌よつば12月号特集掲載）

これからも、組合員、地域住民に愛されるJA運営に努めてまいりますので、JA会津よつばをご利用お願い申し上げます。

代表理事組合長 長谷川 一雄

イケてる！会津の農産物PR



第56回福島民報広告大賞でカラーの部「金賞」受賞



平成29年度JAと17市町村合同トップセールスの広告として福島民報に掲載しました上記広告が「第56回福島民報広告大賞」において、カラーの部で最高位の「金賞」を受賞しました。

作品講評

会津の野菜や花などを入れる段ボール箱のビジュアルをそのままコラージュしている所にセンスの良さを感じた。ビビットな色のカラー広告が多い中、段ボールの渋い色調が逆に目立った。「会津の〇〇ですぞ」とイラストとコピーがリンクしていて面白い。コメナルド画伯というキャラが語りかける事により親しみがわき、コミュニケーションに一役買っている。

2017年12月21日(木)福島民報より引用